

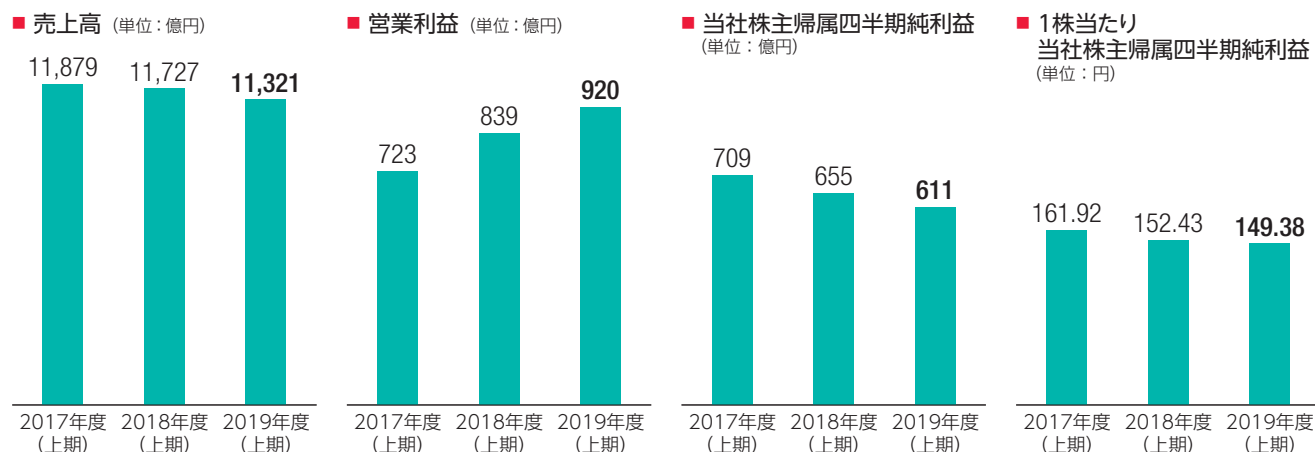
FUJIFILM NEWS

Vol.101 株主通信

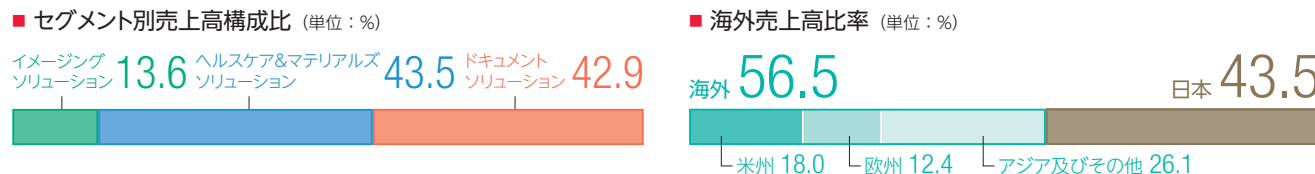
2019年度上期 決算ハイライト

2019年度上期決算のポイント

上期業績	営業利益は前年同期比+9.7%の増益 為替円高影響を除くと+19.3%の大幅増益
事業別業績 (前年同期比)	- ヘルスケアは、メディカルシステム事業、再生医療事業の増収などにより増益 - ドキュメントは、収益性の改善や構造改革効果により増益 - イメージングは、減収により減益



※2017年度（上期）の営業利益については、米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。



詳細な財務情報は、当社ウェブサイト「株主・投資家情報」をご覧ください。

アドレスはこちら > <http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

株主の皆様へ

中期経営計画「VISION2019」の達成により 企業価値の向上を実現する

株主の皆様には、平素よりご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今年も各地で台風など自然災害が多く発生した一年となりました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興、復旧をお祈り申し上げます。

2019年度上期は、ヘルスケア領域及びドキュメント事業の収益性改善によって、営業利益は前年同期比9.7%増益の920億円、為替の円高影響を除くと前年同期比19.3%増の大幅増益となりました。

株主還元について、2019年度中間期の配当金は、1株当たり47.5円といたしました。期末配当金も同様に1株当たり47.5円を予定しており、年間配当金は10期連続増配となる15円増配の1株当たり95円となる予定です。本年8月に発表した500億円の自己株式取得と合わせ、中期経営計画「VISION2019」で計画した通り3年間で合計3,000億円の株主還元を実施していきます。

当社は11月5日に米国ゼロックスコーポレーションとの間で、同社が保有する富士ゼロックス株式25%の

全てを当社が取得する契約を締結、11月8日に取得を完了し、富士ゼロックスを完全子会社化しました。

富士ゼロックスは、日本企業と海外企業のジョイントベンチャーの稀有な成功例として知られ、大きな成果を上げてきました。この富士ゼロックスを完全子会社化し、利益を全てグループ内に取り込むとともに、経営の自由度を高めて迅速な意思決定を行い、ドキュメント事業を強化していきます。

今後、富士ゼロックスの高い製品開発能力と製造技術を生かし、OEM供給の拡大によるグローバル市場へのアクセスと、ドキュメント市場の周辺領域における、クラウド、AI、IoT技術を活用したデジタル化ソリューション・サービスの市場導入を加速していきます。これらの施策を推進し、2024年度には当社のドキュメント事業の売上高を、現在の1兆円から約1.3倍の1兆3,000億円に拡大させます。

さらに、当社グループ内での連携を強化することで、これまで以上にシナジー創出を加速させます。例えば、富士フイルムが保有する画像処理技術と富士ゼロックスの言語処理技術を組み合わせ、医療分野の診断レポート作成に生かすなど、ヘルスケア領域にも革新的製品・サービスを展開し、成長領域で事業を拡大していきます。



代表取締役会長・CEO

代表取締役社長・COO

古森重隆 助野健児

今回の富士ゼロックスの完全子会社化によって、中期経営計画「VISION2019」で掲げた重点項目の一つである「ドキュメント事業の抜本的強化」を実現させるだけでなく、グループ内での人的交流・技術交流を活発化させることでさらなる事業成長を図るとともに、キャッシュ創出力をさらに強化します。当社は、本年8月にヘルスケア領域のバイオCDMO事業において米国バイオ医薬品大手バイオジェンの製造子会社を買収して大幅に生産能力を増強させるなど、積極的な投資を進めています。今後も強固なキャッシュ創出力を元に成長領域への継続的な投資を行うことで、もう一つの重点項目「ヘルスケア・高機能材料領域の事業成長強化」も同時に実現し、企業価値の向上を確実に進めていきます。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年12月

富士フイルムグループトピックス

再生医療事業において iPS細胞を用いたがん免疫治療薬の開発を加速

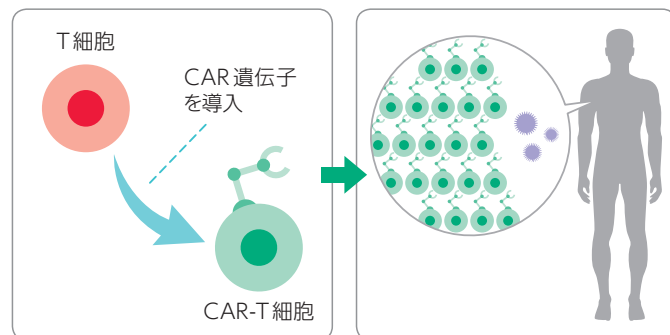
TOPICS 1

生体の持つ免疫機能を高めてがん細胞を排除するがん免疫療法は、延命効果や症状の緩和が期待できることから、研究開発が活発化しています。既存のがん免疫治療薬は、患者自身の免疫細胞（T細胞）から作製するCAR-T細胞を用いることから、患者ごとに細胞品質にバラつきが発生したり、製造コストが非常に高いといった課題があります。

当社の米国子会社FUJIFILM Cellular Dynamicsは、米国ベンチャーキャピタルのVersant Ventures Managementと新会社Century Therapeuticsを設立。均一な品質と製造コストの大幅な低減が期待できる、iPS細胞由来のCAR-T細胞を用いた次世代がん免疫治療薬の開発を開始しました。本開発プログラムには、大手製薬企業のBayer AGも参画します。

当社は新会社設立により、新しい治療薬の早期創出と事業化を目指すとともに、当社グループが保有する高度なiPS細胞関連技術や生産施設などを活用して、治験薬・治療薬の製造や生産プロセスの開発を行っていきます。

■ CAR-T細胞を用いたがん免疫療法の流れ



T細胞に、がん細胞への攻撃性を高めるCAR遺伝子を導入してCAR-T細胞を作製

体内にCAR-T細胞を入ると、体内でCAR-T細胞ががん細胞を攻撃

内視鏡事業をさらに強化 生産効率を高めた最新のスマート工場を建設

TOPICS 2

当社は内視鏡製品の生産拠点である富士フイルムテクノプロダクツ佐野工場内に、AIやIoT技術を活用して生産効率を大幅に高めた工場を建設し、2019年9月より本格稼働させました。ここでは、微小な病変の発見をサポートする当社の内視鏡システム「LASEREO（レザリオ）」などに対応した内視鏡スコープを生産しています。

内視鏡スコープの製造には、微細で高精度な加工技術が求められ、製造工程も複雑です。そのため製造には、熟練者のノウハウや卓越した技術が必要で、生産効率を上げることが非常に困難でした。

今回新設した新工場は、工場内の人やモノの動き、設備状態をIoTで管理する最新のスマート工場です。工場内各所に配置したセンサーで情報を収集し、生産の進捗などをリアルタイムかつ統合的に把握することで、スピーディーに分析・改善を行い、生産の効率化を実現します。さらに通常は熟練者が目視で行っている内視鏡の映像検査を、AIに判断基準を学習させて自動化する

ことなどによって、作業の大幅な効率化と安定品質の両立が可能です。

新工場の稼働により、佐野工場全体における内視鏡スコープの生産能力は従来の2倍となります。内視鏡の需要がグローバルで拡大する中、当社は迅速かつ安定的で高品質な内視鏡製品の生産体制を確立し、内視鏡事業のさらなる強化を図ります。



新工場外観

持続的な企業価値向上を目指し、 「ESG推進部」を新設

TOPICS 3

当社は持続的な企業価値の向上に向けて、これまで経営企画部内に置かれていたCSR部門を発展的に改組し、社長直下の組織として「ESG*推進部」を新設しました。この新組織においては、コーポレート部門や事業部門と連携してESGに関わる全社戦略を策定し、社会課題の解決を新事業創出の機会として事業戦略

に反映させるなど、全社的なESGの取り組みを加速させます。今後も当社はESGを経営の根幹に位置づけ、コーポレートガバナンスを強化するとともに、製品・サービス・技術開発などを通じて新たな価値を創出することで、社会課題の解決に貢献し、さらなる企業価値向上を図ります。

※Environment（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）の頭文字。

セグメント別概況

イメージング ソリューション

<事業>

フォトイメージング、
電子映像・光学デバイス



[FUJIFILM X-T3]



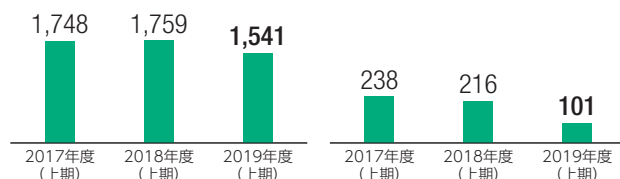
[instax mini LiPlay]

■ 売上高 (単位: 億円)

1,541億円
(前年同期比12.4%減)

■ 営業利益 (単位: 億円)

101億円
(前年同期比53.0%減)



業績概要

- ・フォトイメージングでは、カラーペーパーの販売減に加えて、インスタントフォトシステムで一部在庫調整が入ったことなどにより、売上は減少。
- ・電子映像では、市場環境が厳しく、主にミラーレスカメラのエントリーモデルの売上が減少。
- ・光学デバイスでは、主に中国景気の減速による各種産業用レンズの需要減の影響を受け、売上は減少。

今後の取り組み

- ・フォトイメージングは、新製品のハイブリッドインスタントカメラ「instax mini LiPlay」やスマートフォン用プリンター「instax mini Link」を中心に拡販を図る。
- ・光学・電子映像は、ミラーレスカメラや交換レンズの新製品の拡販、プロジェクターやシネマカメラ用ズームレンズの新シリーズなどのラインアップ強化により事業成長を図る。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション

<事業(ヘルスケア)>

医薬品・バイオCDMO、再生医療、
メディカルシステム、ライフサイエンス

医用画像
情報システム
[SYNAPSE]



<事業(高性能材料等)>

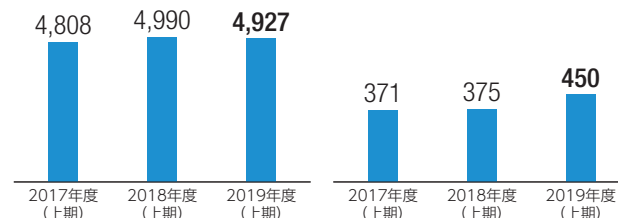
ディスプレイ材料、産業機材、電子材料、
ファインケミカル、記録メディア、グラフィックシステム・インクジェット

■ 売上高 (単位: 億円)

4,927億円
(前年同期比1.3%減)

■ 営業利益 (単位: 億円)

450億円
(前年同期比20.0%増)



業績概要

- ・メディカルシステムは、医療ITや内視鏡などの分野で販売が好調に推移。
- ・バイオCDMOは、設備増強によりバイオ医薬品の開発・製造受託が好調に推移。
- ・再生医療は、連結子会社化した培地のリーディングカンパニー FUJIFILM Irvine Scientificが寄与し、売上が大幅に増加。
- ・電子材料はイメージセンサー用カラーレジストなどの販売が堅調に推移。

今後の取り組み

- ・メディカルシステムは、医療ITを中核に、独自性のある新製品投入や、新興国市場における一層の拡販を推進。
- ・バイオCDMOは、8月に買収完了したバイオジェン製造子会社の設備・人材も活用し、事業成長を図る。
- ・再生医療は、培地の売上を継続的に拡大。
- ・電子材料は、積極的に設備投資を行い事業拡大を推進。

ドキュメント ソリューション

<事業>

オフィスプロダクト&プリンター、
プロダクションサービス、
ソリューション&サービス



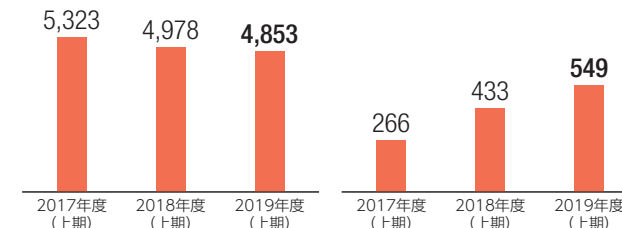
[Iridesse™ Production Press]

■ 売上高 (単位: 億円)

4,853億円
(前年同期比2.5%減)

■ 営業利益 (単位: 億円)

549億円
(前年同期比26.9%増)



業績概要

- ・オフィスプロダクトでは、堅牢なセキュリティを実現するカラー複合機「ApeosPort-VII C」シリーズなどの販売が好調に推移。
- ・プロダクションサービスは、高速・高画質のカラー・オンデマンド・パブリッシング機の販売が引き続き好調に推移。
- ・ソリューション&サービスは、オフィスのIT環境構築などを一括してサポートするサービスが伸長、BPO (Business Process Outsourcing) 契約獲得により、売上が好調に推移。

今後の取り組み

- ・独自のAI技術とIoT・IoH (Internet of Human) 技術を活用した新サービスの提供により事業成長を加速。
- ・RPA (Robotic Process Automation) を活用した生産性の向上や、構造改革の確実な実行により、収益を改善。

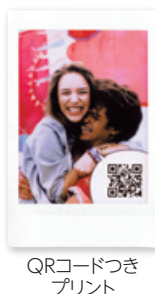
※2017年度(上期)の営業利益については、米国会計基準の変更に伴い、期間年金費用及び期間退職後給付費用の表示区分の変更を遡及適用しています。

新製品NEWS

Imaging Solutions

ハイブリッドインスタントカメラ “チェキ”^{インスタックス ミニ リプレイ} [instax mini LiPlay] 新発売

小型・軽量の携帯性に優れたカメラ本体に、伝えたいメッセージなどの音声をQRコード※化して写真とともにプリントできる「サウンド機能」など、新機能を搭載。撮ったその場ですぐにプリントが楽しめるインスタントフォトシステムの世界がさらに広がりました。



QRコードつき
プリント



※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標。

Imaging Solutions

スマートフォン用プリンター “チェキ”^{インスタックス ミニ リンク} [instax mini Link] 新発売

スマートフォンの画像を高画質なチェキプリントに出力できるほか、動画からベストショットを簡単に切りだしてプリントできます。さらに、友達との相性診断や各自のスマートフォンから送った画像を1枚にまとめてプリントできる機能など、大人数で楽しめるユニークな機能を搭載しました。



Imaging Solutions

ミラーレスデジタルカメラ^{フジフィルム エックスエーセブン} [FUJIFILM X-A7] 新発売

スタイリッシュなボディに新開発イメージセンサーを搭載し、独自の色再現による高画質を実現。速度・精度を向上したオートフォーカスで素早く正確にピントを合わせられるほか、高まるハイクオリティ動画の撮影ニーズにも対応。簡単なタッチ操作で撮影設定を調整できる大型液晶モニターが、より快適な撮影をサポートします。



Healthcare & Material Solutions

男性用スキンケアシリーズ ^{アスタリフト メン} [ASTALIFT MEN] 新発売

エイジングケア※を目的としたアスタリフトブランドから、男性用スキンケアシリーズを新たに展開。写真分野で長年培った独自の技術を生かして開発し、ジェリー状先行美容液、洗顔料、化粧水、乳液の全4品をラインアップしました。



※保湿による年齢に応じたケアのこと。

Healthcare & Material Solutions

ワイヤレス超音波画像診断装置 ^{アイビズ エア} [iViz air] 新発売

スマートフォン型の本体とワイヤレスのプローブで構成された小型・軽量の製品で、在宅医療や救急、院内回診などでの高画質な超音波画像診断を実現。AI技術※を活用した尿量自動計測機能も搭載し、医師や看護師の診療をサポートします。



プローブ

本体

※AI技術の一つであるディープラーニングを活用して設計した膀胱尿量自動計測機能を搭載。

独自技術とグループの総合力で再生医療の実用化に貢献

当社は中期経営計画「VISION2019」において、ヘルスケア領域を成長領域と位置付け、重点的に経営資源を投入し、事業成長を加速させています。

このシリーズでは、当社のヘルスケア領域における強みや今後の成長性を広くご理解いただくため、具体的な取り組みをご紹介します。

第4回は、新しい医療技術として注目され、大きな期待を集めている「再生医療」をご紹介します。

医療現場の課題

有効な治療法のない疾患に対する 「再生医療」という希望の光

日々進歩し発展する医療の領域にあっても、日本人の死因第1位であるがん^{*1}や、著しい視力低下や失明を招く網膜疾患など、いまだ有効な治療法のない疾患は少なくありません。一刻も早い治療法の確立が求められるこうした難病に対する“究極の解決策”として、注目されているのが再生医療です。

従来の投薬による治療とは異なり、再生医療は患者の体外で培養した細胞や組織を用いて、我々の身体に備わっている組織の再生能力を引き出すことにより、失われた組織や臓器の機能を回復させる治療方法です。

再生医療に大きな役割を果たすiPS細胞^{*2}は、日本が世界で初めて作製し、その研究水準は世界トップクラスを誇っています。しかし、再生医療の実用化・産業化についてはまだ十分に進んでいないという現状があります。

こうした中、富士フイルムグループは幅広い専門領域を網羅するグループの総合力を駆使して、再生医療のさらなる進展に貢献しています。

^{*1} 厚生労働省「2017年人口動態統計（確定数）」より。

^{*2} 細胞を培養して人工的に作られる様々な組織・臓器の細胞に分化する能力とほぼ無限の増殖能力を有する人工多能性幹細胞（induced Pluripotent Stem cell）。2006年、京都大学の山中伸弥教授率いる研究グループが世界に先駆けて作製に成功。

課題を解決する富士フイルムの再生医療事業

再生医療を実現する高度な技術をグループ内に保有し、 幅広い領域で事業展開する再生医療のリーディングカンパニー

富士フイルムは、日本初の再生医療製品を開発・上市したジャパン・ティッシュ・エンジニアリング（以下、J-TEC）、iPS細胞の開発・製造のリーディングカンパニーである米国Cellular Dynamics International^{*3}などをグループ会社化し、再生医療に有用な様々な技術をグループ内に保有しています。さらに、富士フイルム自身が長年の写真フィルムの研究で培ってきた高機能素材技術やエンジニアリング技術も生かしながら、再生医療分野におけるリーディングカンパニーとして成長を続けています。

富士フイルムグループにおける再生医療の事業領域は、細胞治療や組織再生による病気やケガの「治療」、製薬会社や研究機関などに新薬開発のためのiPS細胞などを提供する「創薬支援」、他社の再生医療製品の開発や製造を受託する「開発・製造受託」に大別されます。

その内「細胞治療」では、がんや眼疾患、神経系疾患などを対象として、iPS細胞を使用した再生医療製品や治療法の開発に取り組んでいます。

また「組織再生」では、J-TECが自家培養表皮「ジェイス」と自家培養軟骨「ジャック」を保有し既にビジネスを展開しています。現在、国内で承認されている再生医療等製品は7製品ありますが、この内の2製品を当社グループが提供しています。

^{*3} 現：FUJIFILM Cellular Dynamics

■ 富士フイルムグループが保有する再生医療関連技術

富士フイルム	高機能素材技術・エンジニアリング技術
J-TEC	再生医療等製品開発・製造技術
FUJIFILM Cellular Dynamics	iPS細胞開発・製造技術
富士フイルム和光純薬	培地の開発・製造技術
FUJIFILM Irvine Scientific	

再生医療事業における強み

確かな実績を重ねながら、さらに進化する 日本における再生医療ビジネスのパイオニア

ひざの関節軟骨には血管がないために一度損傷を受けると自然には治らず、また投薬等で治療することは困難です。J-TECの再生医療製品の一つである「ジャック」は、患者自身の軟骨細胞を採取したものを培養して移植する自家培養軟骨です。既に事故やスポーツによるひざのケガなどの治療を目的に、2018年までに累計160施設・700件以上の移植実績があります。^{※4}

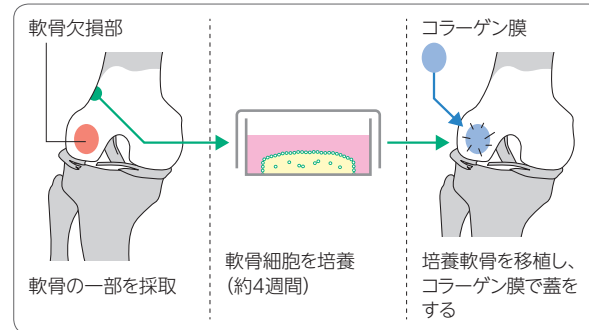
再生医療のパイオニアであるJ-TECは、自家培養表皮、自家培養軟骨の製造販売を通じて培われた高度な培養技術・ノウハウを保有しています。さらに医師への営業においても、学術的知識に基づいてコンサルティングを行いながら手術の立ち会いや術後のフォローアップまで、多岐にわたる活動で治療をサポートしています。

さらに、研究開発から生産、営業、販売後の調査にいたるバリューチェーン全体をカバーし、全工程において適切かつ高精度な品質マネジメントを実現している点も強みの一つです。このような強みを生かし、治療現場で入手した声を研究開発部門へフィードバックし、手術時の患者の身体的負担軽減に繋げるための仕様変更を行うなど、さらなる改良・改善に取り組んでいます。

※4 適応対象はひざ関節における外傷性軟骨欠損症または離断性骨軟骨炎（変形性膝関節症を除く）。自家培養軟骨による治療の対象かどうかについては専門医師の判断となります。

●自家培養軟骨 使用届出施設一覧 <http://saisei-navi.com/hiza/hospital/>

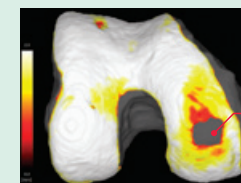
■ 自家培養軟骨移植術の流れ



技術のグループシナジーで より正確な診断をサポート

現在、自家培養軟骨を使った治療の事前診断ではMRI等で撮影した2次元画像を用いて軟骨欠損部を確認していますが、その大きさ・状態を正確に把握することは困難です。これに対して、医療画像を立体的に可視化する富士フィルムの3次元画像解析システム「SYNAPSE VINCENT」を用いると、患部の形や厚み、サイズなどを立体的に把握でき、自家培養軟骨による治療に適した症例かどうかの判断や、手術前のシミュレーションに役立ちます。

さらにこのシステムは、培養軟骨を移植した後の周辺組織への定着状態を確認する際にも活用でき、リハビリテーション開始のタイミングを判断する精度向上にも寄与。富士フィルムグループ内のシナジーが発揮できる取り組みとして、現在導入を進めています。



■ SYNAPSE VINCENTでの3次元画像
軟骨欠損部
軟骨の厚みをカラーで表示

再生医療事業の 今後の展開

現時点での自家培養軟骨「ジャック」による治療の対象はひざ関節における外傷性軟骨欠損症と離断性骨軟骨炎に限られていますが、今後、外傷等に起因して軟骨が摩耗・変形し痛みを生じる二次性の変形性膝関節症^{※5}にも適応されるよう、現在治験を実施中です。

当社は2017年に和光純薬工業^{※6}、2018年にはIrvine Scientific Sales Company^{※7}を買収し、細胞培養に必要な不可欠な栄養分である「培地」の事業に参入しました。今後も富士フィルムグループは、グループの持つiPS細胞や培地等に関連する幅広い技術・ノウハウを組み合わせ、再生医療分野の研究開発を加速させます。さらに自社の再生医療製品の開発・提供のみならず、再生医療のリーディングカンパニーとして、他社から再生医療製品の開発・製造を受託するビジネスの拡大も目指していきます。

※5 二次性の変形性膝関節症は、スポーツや事故による外傷など原因が特定できるものを指します。

※6 現：富士フィルム和光純薬

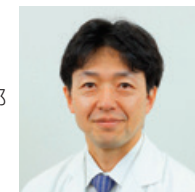
※7 現：FUJIFILM Irvine Scientific

Voice

スポーツ等で痛めたひざ機能の回復に貢献

ジャックを用いた自家培養軟骨移植術は、従来の方法では治療が難しかった大きな軟骨欠損に対して治療ができ、さらに治療後のひざ機能の回復状況がとても良いことが特長です。治療を諦めていたが、この手術とその後のリハビリテーションの努力によってケガから復帰できたというスポーツ選手もあり、非常に喜ばれています。今後この治療を受けられる方がさらに増え、ひざの痛みを抱えている多くの方の生活が改善できることを期待しています。

慶應義塾大学医学部
整形外科科学教室
准教授
二木 康夫先生



グループが持つ
幅広い技術・
ノウハウを活用し、
リーディングカンパニー
として再生医療の
早期実用化を
目指す

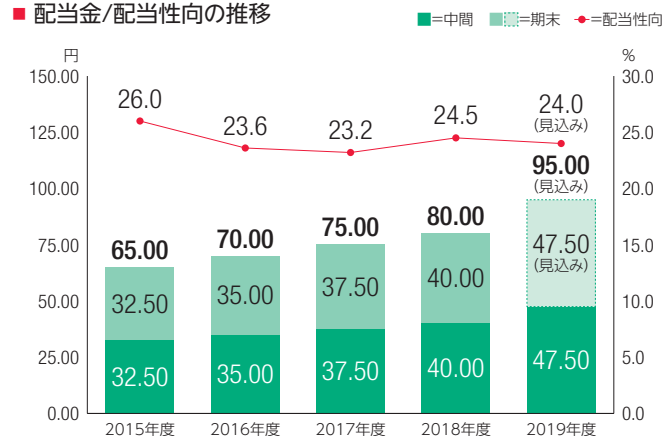
投資家インフォメーション

株式データ

株価 4,740円	単元株式数 100株
必要投資金額 474,000円	証券コード 4901
PER 11.98倍	PBR 0.95倍

※2019年9月30日終値をもとにしています。

■ 配当金/配当性向の推移



会社概要 (2019年9月30日現在)

会社名 富士フイルムホールディングス株式会社
 設立 1934年1月20日
 資本金 40,363百万円
 本社 東京都港区赤坂9丁目7番3号
 連結従業員数 72,842名

メール配信サービスのご案内

当社の最新情報を電子メールで配信するサービスです。ぜひご登録ください。

ご登録はこちらから >>>

<https://www.magicalir.net/4901/mail/index.php>



マイナンバー制度に関する お手続きについて

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きのため、口座開設されている証券会社等へお届けいただく必要がございます。

■ 株式関係業務におけるマイナンバーの利用目的

法令に定められたとおり、支払調書に株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

主な支払調書 ・ 配当金に関する支払調書
 ・ 単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

■ マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先

・ 証券口座にて株式を管理されている株主様 ⇒ 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。
 ・ 証券会社とのお取引がない株主様 ⇒ 三井住友信託銀行 証券代行部までお問い合わせください。
 ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)

株主優待のご案内

株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、長期的に保有していただくことを目的とした株主優待制度をご案内します。

12月実施 (基準日:2019年9月30日)

- 単元株(100株)以上保有の株主様
当社ヘルスケア製品
優待価格販売(お申し込み制)
- 1年以上、単元株(100株)以上保有の株主様
当社フォトブック等プリントサービス
利用クーポン券(1,000円分)プレゼント
- 3年以上、500株以上保有の株主様
当社フォトブック等プリントサービス
利用クーポン券(4,000円分)プレゼント



7月実施 (基準日:2020年3月31日)

- 単元株(100株)以上保有の株主様
当社ヘルスケア製品優待価格販売(お申し込み制)
- 1年以上、単元株(100株)以上保有の株主様
当社ヘルスケアトライアルキット及びヘルスケア製品
(計2,000~3,000円相当) プレゼント(お申し込み制)
- 3年以上、300株以上500株未満保有の株主様
当社ヘルスケア製品(4,000~5,000円相当)
プレゼント(お申し込み制)
- 3年以上、500株以上保有の株主様
当社ヘルスケア製品(9,000~10,000円相当)
プレゼント(お申し込み制)



* なお、対象製品やお申し込み期限など、詳細は別途ご案内を差し上げます。
 * 1年以上あるいは3年以上保有の株主様とは、基準日現在の株主名簿上で、当初取得日が1年前あるいは3年前の同日以前の方です。
 * プリントサービス利用クーポン券は、1,000円分と4,000円分のいずれかのクーポン券(株主優待専用ウェブサイトからのお申し込みに限り使用可能)をお送りします。
 * 写真は製品の一例です。

FUJIFILM

